

単語にはいろいろな分け方がありますが、ここでは単語を大きく二つに分けるよい分け方を学習しましょう。

それだけで文節となれるかどうか分け方①

単語は、それだけで文節となれるか文節の頭に来るかという点で、大きく自立語と付属語の二つに分類できます。例にならって自立語と付属語を集めてみましょう。

自立語・例 あひる、公園、歩く

付属語・例 が、を

活用するかしないか分け方②

「歩く」「歩かない」「歩きます」のように、単語がほかの単語に続いたり言い切ったりするときに形を変えることを活用と言います。活用するかしないかという点でも、単語は分類できます。例にならって活用する語としない語を集めてみましょう。

活用する・例 歩く、舞う、美しい

活用しない・例 あひる、たいへん、が

練習しよう

1 例にならって次の各文の自立語を□で囲みましょう。

例 わたしの父が作ります。

① タロウは今年で十歳です。

② 南知多町は半島のいちばん南にある。

③ 美しい川をみんなで守る。

④ はい、僕が二組の学級委員です。

ワンポイントアドバイス

★文節の頭にあるのは必ず自立語です。しかも、一文節に自立語は一つだけしかありません。

2 例にならって次の各文の付属語を□で囲みましょう。

例 わたしの父が作ります。

① 今年の六月は空梅雨です。

② ぼくのいるところが東海市にいます。

③ あまり力が入るとつかれてしまう。

④ きつと先生は牛乳を飲みますね。

ワンポイントアドバイス

★文節の中に付属語のないこともあるし、二つ以上あることもあります。

おいしい

おいしい＋よ

おいしい＋よ＋なあ

3 例にならって次の単語のうち活用するものはどんな活用した形があるか書き、活用しないものは×を書きましょう。

例 うまい ←(うま)く

① 高い ←()

② 書く ←()

③ わたし ←()

④ まったく ←()

ワンポイントアドバイス

★自立語を活用のあるなしで区別するには、形を変えて付属語の「た」とか「ない」がつくかどうかを見るといいよ。

歩く＋た ←歩いた

形を変えて「た」がついた！

いちばん＋た ←いちばんた？

つきません！

発展問題

1 例にならって次の文を文節に区切りましょう。さらに単語に分け、自立語は□で囲み、付属語は――線を付けましょう。

例 わたしは／茶わんを／持つて／いる。

① これは甲子園の土だ。

② その土を捨ててしまふ。

③ そして、僕はうれしくなった。

④ 暑いから、プールで泳ぎたい。

⑤ 机の上には本がない。

⑥ 揺れる蠅取り紙も気にならない。

⑦ イギリス人の彼は

日本に来て三年になる。

⑧ 校長先生もまだ

男盛りの四十代だった。

2 例にならって、自立語と付属語をつないで文節を作りましょう。

例 読む＋ない＋ぞ

← 読まないぞ

① 話す＋た

←

② 行く＋ます＋ん

←

③ 知る＋ない＋た＋よ

←

チャレンジ問題

1 例にならって次の各文を自立語と付属語に分けましょう。

例 ぼくは走らない。 ← 直 ぼく、走る

付 は、ない

① 明日は雨だ。

← 直

付

② 君の考えは甘いと思う。

← 直

付

③ ああ、いいこと言うね。

← 直

付

ワンポイントアドバイス

★③は、引っかけ問題です。よく考えて。話し言葉では、
こういう省略がよくありますよ。

2 次の——線部の単語について、活用のあるものは（ ）

の中に言い切りの形を、活用のないものは（ ）の中に
×を書きましょう。

（ ） （ ）

① 九月の海は波が高くなるよ。

（ ） （ ）

② 空から恐怖の大王が来た。

（ ） （ ）

③ 明日になればいいこともある。

3 次の文章中から活用する自立語を含んだ文節を探して——
線を引きましょう。

最近、海外で活躍するスポーツ選手のニュースをよ

く聞く。たいへん喜ばしいことだ。彼らに共通するの

は夢を持ち、それに向けて努力を続けたという点。知

多の若者にもぜひ後に続いてもらいたい。

4 次の会話中の「 」の中には適当な自立語を、「 」の中には適当な付属語を入れて、意味が通るようにしましょう。

A 「 」 、 聞い 「 」 よ。

B 「うん。いい 「 」 。

A 「 」 、きのう 「 」 へ元気よく

「 」 たのよ。

B 「 」 。 「 」 なあ。

A 「 」 、わたしったら 「 」 の

前 「 」 「 」 を 「 」

しちゃったの。

B 「えーっ、それは 「 」 よ

5 次の に入っている自立語と付属語をいくつか使って（何度使ってもよいし、活用させてもよいです）簡単な文を三つ作りましょう。

自立語

雨、お父さん、牛、わたし、食べる、走る、転ぶ
美しい、笑う、おだやかだ、その、そして
いつも、ああ、まったく、知多、学校、きつと

付属語

だ、なあ、です、ない、ぞ、の、に、を、て
は、たい、う、ね

一つ目の文

二つ目の文

三つ目の文

P 2

「それだけで文節になれるかどうか」

自立語の例：うし、とら、たこ、転ぶ、サッカー

付属語の例：の、に、へ、も、か

「活用するかしないか」

活用する例：寝る、着る、かわいい

活用しない例：とら、さる、もの

「練習しよう」

1 □で囲む単語

① タロウ、今年、十歳

② 南知多町、半島、いちばん、南、ある

③ 美しい、川、みんな、守る ④ はい、僕、二組、学級

委員

P 3

2 □で囲む単語

① の、は、です ② の、が、に

③ が、と、て ④ は、を、ます、ね

3 ①例：高く ②例：書かない ③× ④×

P 4

「発展問題」

1 ① これは／甲子園の／土だ。

② その／土を／捨てて／しまう。

③ そして、／僕は／うれしく／なった。

④ 暑い／から、／プールで／泳ぎたい。

⑤ 机の／上には／本が／ない。

⑥ 揺れる／蠅取り紙も／氣に／ならない。

⑦ イギリス人の／彼は／日本に／来て／三年

に／なる。

⑧ 校長先生も／まだ／男盛りの／四十代だっ

た。

2 ① 話した ② 行きませ ③ 知らなかったよ

P 5

「チャレンジ問題」

1 ① 自：明日、雨 付：は、だ

② 自：君、考え、甘い、思う 付：の、は、と

③ 自：ああ、いい、こと、言う 付：ね

2 ① ×、高い ② ×、来る ③ なる、ある

3 活躍する、聞く、喜ばしい、共通するのは、持ち、向けて、

続けた、続いて、もらいたい

P 6

4 例：ねえ、て、よ、わたし、大阪、行つ、大阪、遠い、

でも、駅、で、さいふ、落と、ばか

5 例1：きつと牛を食べたいでしょう。

例2：ああ、まったく知多の学校は美しいなあ。

例3：わたしのお父さんはおだやかに笑うぞ。